

招聘状

研究分担者、および関係者各位殿

前略

下記のごとく厚生労働省科学研究費補助金「難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）：重症多形滲出性紅斑に関する調査研究（H26－難治等（難）－一般－081）」の平成26年度第1回班会議を開催いたしますので、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

草々

記

日時：平成26年7月26日（土）
9：30～16：30（予定）

場所：東京駅前 朝日生命大手町ビル フクラシア東京ステーション 会議室6階
住所：〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-1 朝日生命大手町ビル5F/6F
・JR [東京]駅・地下鉄[大手町]駅 地下直結（メトロポリタンホテル向かい側）
・JR [東京]駅・日本橋口徒歩1分
・JR 地下鉄[大手町]駅 B6 出口直結
電話：03-3510-3051

議題：（予定）

1. SJS/TEN へのステロイドパルス療法
2. 分担研究者・関係者報告

プログラムは7月中旬に発送予定です。

平成26年6月吉日
研究代表者：杏林大学医学部皮膚科
教授 塩原哲夫

厚生労働省科学研究費補助金
「難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）：重症多形滲出性紅斑
に関する調査研究（H26－難治等（難）－一般－081）」
平成 26 年度 第 1 回班会議プログラム

研究代表者：杏林大学医学部皮膚科 塩原哲夫

日時：平成 26 年 7 月 26 日（土）
9：30～15：00（予定）

場所：東京駅前 朝日生命大手町ビル フクラシア東京ステーション
会議室 6 階

住所：〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-6-1 朝日生命大手町ビル 5F/6F
・JR [東京]駅・地下鉄[大手町]駅 地下直結（メトロポリタンホテル向かい側）
・JR [東京]駅・日本橋口徒歩 1 分
・JR 地下鉄[大手町]駅 B6 出口直結
電話：03-3510-3051

Asian SCAR Meeting

9:30

開会の挨拶 研究代表者 塩原哲夫 先生
今後の研究（疾患登録、疫学研究、診断基準など）について

9:40

国立保健医療科学院 研究事業推進官（厚生労働科学研究費補助金（健康安全・
危機管理対策総合研究事業、難治性疾患政策研究事業））
健康危機管理研究部 上席主任研究官 厚生労働省大臣官房厚生科学課（併任）
武村真治 様 ご挨拶

9:55

1. 疾患登録について
代表研究代表者：塩原哲夫 Shiohara T.

10:00

2. IVIG 療法が有効であった TEN の 1 例
A case of toxic epidermal necrolysis successfully treated with IVIG
石田修一、相原道子(横浜市大) Ishida S.

10:10

3. IVIG treatment for SJS/TEN

相原道子(横浜市大) Aihara M.

→追加コメント：IVIg 療法が SJS/TEN の治療として追加承認

10:25

4. Protocol of steroid pulse therapy for SJS/TEN

森田栄伸 (島根大) Morita E.

11:00

5. Stevens-Johnson 症候群の診断基準 適用に際しての注意事項 (案)

末木博彦 (昭和大) Sueki H.

11:15

6. SJS/TEN 眼後遺症に影響する因子

Prognostic Factors on the Ocular Sequelae Due to SJS or TEN

外園千恵 (京都府立医大) Sotozono C.

11:30

7. DIC in SJS/TEN

Chung Wen-Hung (Chang Gung Univ.)

11:50

8. Long-term sequelae of SJS/TEN

Che-Wen Yang, Chia-Yu Chu (National Taiwan Univ. Hospital)

12:10

Lunch

13:00 事務局連絡 (Official announcement of the next meeting)

・次回班会議:Next Asian-SCAR Meeting

候補日: 2014. 11.29(Sat) / 12.27 (Sat) 11.28(Fri) / 12.26(Fri)

・倫理委員会関連書類 (合意書)

13:10

9. Progress report of prospective clinical trial, GENCAT Study and identification of genes associated with drug-induced skin rash

蒔田泰誠 (理化学研究所) Mushiroda T

13:25

10. 感冒薬による重症薬疹の HLA 解析

HLA analysis of cold-medicine related severe drug reactions

上田真由美 (京都府立医大) Ueta M.

13:40

11. 薬疹の診断における TARC 迅速測定の有用性

Rapid measurement of serum TARC is useful in diagnosing severe cutaneous adverse reaction

新原寛之、森田栄伸（島根大）Niihara H.

13:55

12. アロプリノールによる SJS の 1 年後に、同剤で DIHS を発症した 1 例

A case of allopurinol-induced DIHS with a past history of allopurinol-induced SJS

小豆澤宏明（大阪大）Azukizawa H.

14:05

13. DIHS の腎障害における HHV-6 の関与

Involvement of HHV-6 infection in renal dysfunction associated with DIHS

宮下和也、宮川史、浅田秀夫（奈良医大）Miyashita K.

14:15

14. 滲出性紅斑の鑑別診断としてのコクサッキーウイルス A6 感染症

Coxsackie A6 infection and erythema multiforme exudativum

藤山幹子（愛媛大）Tohyama M.

14:25

15. 重症薬疹におけるサイトカインパターン

Analysis of cytokine pattern in patients with SCARs

水川良子（杏林大）Mizukawa Y.

14:40 終了予定

招聘状

研究分担者、および関係者各位殿

前略

下記のごとく厚生労働省科学研究費補助金「難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）：重症多形滲出性紅斑に関する調査研究（H26－難治等（難）－一般－081）」の臨時班会議を開催いたしますので、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

草々

記

日時：平成26年9月26日（金）
17:00～20:00（予定）

場所：新宿 京王プラザホテル 42階 津久井
住所：〒160-8330 東京都新宿区 西新宿 2-2-1
電話：03-3344-0111（代表）

議題：難病公費負担と救済制度

平成26年9月吉日
研究代表者：杏林大学医学部皮膚科
教授 塩原哲夫

招聘状

研究分担者、および関係者各位殿

前略

下記のごとく厚生労働省科学研究費補助金「難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）：重症多形滲出性紅斑に関する調査研究（H26－難治等（難）－一般－081）」の平成26年度第2回班会議を開催いたしますので、ご出席いただきますようお願い申し上げます。

草々

記

日時：平成26年12月27日（土）
9：30～16：30（予定）

場所：東京駅前 朝日生命大手町ビル フクラシア東京ステーション 会議室6階
住所：〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-1 朝日生命大手町ビル5F/6F
・JR [東京]駅・地下鉄[大手町]駅 地下直結（メトロポリタンホテル向かい側）
・JR [東京]駅・日本橋口徒歩1分
・JR 地下鉄[大手町]駅 B6 出口直結
電話：03-3510-3051

議題：（予定）

1. SJS 及び TEN の診断基準改定案
2. SJS/TEN の治療指針案
3. SJS/TEN へのステロイドパルス療法 RegiSCAR 報告
4. DIHS の重症度分類案
5. 分担研究者 研究報告

プログラムは12月中旬に発送予定です。

平成26年10月吉日
研究代表者：杏林大学医学部皮膚科
教授 塩原哲夫

厚生労働省科学研究費補助金
「難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業）：重症多形滲出性紅斑に
関する調査研究（H26－難治等（難）－一般－081）」
平成26年度 第2回班会議プログラム

研究代表者：杏林大学医学部皮膚科 塩原哲夫

日時：平成26年12月27日（土）
9：30～16：30（予定）

場所：東京駅前 朝日生命大手町ビル フクラシア東京ステーション
会議室6階

住所：〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-1 朝日生命大手町ビル5F/6F
・JR [東京]駅・地下鉄[大手町]駅 地下直結（メトロポリタンホテル向かい側）
・JR [東京]駅・日本橋口徒歩1分
・JR 地下鉄[大手町]駅 B6 出口直結
電話：03-3510-3051

Asian SCAR Meeting

9:30

開会の挨拶

研究代表者 塩原哲夫 先生

9:35

1. SJS と TEN の診断基準改定原案についての検討

Diagnostic criteria for SJS/TEN

末木博彦 H. Sueki（昭和大）

10:00

* 重症薬疹・診断基準の診断正確度及び診断特異度について

Accuracy and Specificity of DIHS/SJS/TEN diagnosis in Relief Service for Severe Adverse Drug Reaction in Japan

飯島正文 M. Iijima（昭和大）

10:10

2. SJS/TEN の治療指針改定案について

Therapeutic policy for SJS/TEN

相原道子 M. Aihara（横浜市大）

10:50

3. RegiSCAR 報告: Steroid pulse therapy for SJS/TEN
Report: Steroid pulse therapy for SJS/TEN in the RegiSCAR meeting
森田栄伸 E. Morita (島根大)

11:20

4. 薬疹発症リスクのさらなる関連因子としての薬物血中濃度の評価について
Evaluation of pharmacokinetics for identification of additional factors associated with risk of drug-induced skin rash
蕨田泰誠 T. Mushiroda (理化学研究所)
* Comment
塩原哲夫 T. Shiohara (杏林大)

11:50

5. 岡山県精神科医療センターでの重症薬疹の発症状況と症例の内服量についての調査結果
Preliminary epidemiological study of the rates of drug hypersensitivity and administration schedule in Okayama psychiatric medical center
青山裕美 Y. Aoyama (岡山大), 金澤桂子, 馬場大樹, 北川航平, 来住由樹
(岡山県精神科医療センター)

12:05

• Lunch

12:50

- 事務局連絡 (Official announcement of the next meeting)
- 次回班会議 (Next Asian-SCAR Meeting)
候補日: 2015. 7. 18 (Sat) or 8.1 (Sat)

13:00

6. Overlap among different severe cutaneous adverse reactions to drugs: clinical experience in NTUH.
Chia-Yu Chu, et al. (National Taiwan Univ. Hospital)

13:20

7. 日本人におけるβ-ラクタム系抗菌薬誘発薬疹の遺伝的リスクマーカーの探索
Genetic risk factors for β-lactam antibiotic-induced cutaneous adverse drug reactions in Japanese population
大関健志 T. Ozeki (理化学研究所)

13:35

8. アロプリノールによる薬疹の発症に関与する遺伝要因の検討
Genetic factors associated with allopurinol-induced adverse reaction
新原寛之 H. Niihara, 森田栄伸 (島根大)

13:50

9. 当科で経験した重症多形滲出性紅斑と Stevens-Johnson 症候群における血中炎症性サイトカインおよびグラニューライシンと HMGB-1 の推移
Kinetics of serum inflammatory cytokines, granulysin and HMGB-1 in cases of severe erythema exudative multiforme and Stevens-Johnson syndrome
影山玲子 R. Kageyama, 橋爪秀夫 (市立島田市民病院)

14:05

10. SJS 急性期眼障害の診断
Diagnosis of acute ocular involvement in SJS and TEN
外園千恵 C. Sotozono (京都府立医大 眼科)
11. 遺伝子素因から見た眼科 SJS の位置づけ
Position of ophthalmic SJS in all SJS/TEN in the aspect of genetic predisposition
上田真由美 M. Ueta (京都府立医大 眼科)

14:30

12. DIHS のステロイド減量法についての考察
Tapering protocol of steroids for DIHS
藤山幹子 M. Tohyama, 佐山浩二 (愛媛大)

14:45 Coffee break

15:00

13. 成人 T 細胞性白血病に対し投与されたモガリズマブによる制御性 T 細胞の減少に関連して発症したスティーブンスジョンソン症候群の一例
Stevens-Johnson syndrome associated with a deficiency of regulatory T cells during treatment with mogamulizumab in an adult T-cell leukemia-lymphoma patient
中島沙恵子 S. Nakajima, 本田哲也, 椋島健治 (京都大)

15:15

14. MRSA 菌血症と薬剤性が疑われた肺炎を合併した非典型 DIHS の 1 例
A case of atypical DIHS complicated with MRSA sepsis and drug-induced pneumonia
足立剛也 T. Adachi, 高橋勇人 (慶応大)

15:30

15. 当初 TEN 型薬疹が疑われた SSSS の 1 例
A case of SSSS firstly suspected of TEN type drug eruption
宮下和也 K. Miyashita, 宮川史, 浅田秀夫 (奈良医大)

15:45

16. Comparison of US FDA labelling of drugs related to SJS/TEN to academic database:
an international collaboration

*Introduction: ISCAR 2015 Meeting during WCD

Wen-Hung Chung (Chang Gung Memorial Hospital)

16:05

17. In vitro screening of potential therapeutic agents for SJS/TEN by using SJS blister
cells

See-Wen Chin, Wen-Hung Chung (Chang Gung Memorial Hospital)

16:20

終了予定

viii. 公開講演会資料

P.141～P.150

杏林大学公開講演会

杏林大学広報・企画調査室 tel: 0422-44-0611 mail: koho@ks.kyorin-u.ac.jp 【入場無料・申込不要】

5/10 (土) 知っておきたい眼の病気 14:00-15:30 医学部教授 平形 明人	三鷹ネット ワーク大学	10/30 (木) 文明論から見た西欧 13:30-15:00 外国語学部客員教授 上野 景文	八王子学園 都市センター
6/7 (土) まちづくりの手法としての観光 14:00-15:30 外国語学部准教授 古本 泰之	三鷹ネット ワーク大学	11/1 (土) 高齢者肺炎の特徴と対処法 13:30-15:00 医学部教授 河合 伸 医療安全管理部部長 中村 貴枝子	杏林大三鷹 キャンパス
6/28 (土) 循環器疾患 上手な薬の飲み方 13:30-15:00 医学部教授 吉野 秀朗	三鷹ネット ワーク大学	11/8 (土) 救急処置 身の回りの危険 13:30-15:00 保健学部教授 和田 貴子	八王子学園 都市センター
7/5 (土) 運動とリハビリテーション 宇宙飛行士の健康管理から学ぶ 13:30-15:00 医学部講師 山田 深	三鷹ネット ワーク大学	11/12 (水) 新たに展開した薬疹の世界 18:00-19:30 医学部教授 塩原 哲夫	杏林大三鷹 キャンパス
7/5 (土) 4大学合同市民公開講座 (※) チーム医療で支えるがん化学療法 13:30-15:00	杏林大三鷹 キャンパス	11/15 (土) がん医療の最前線 13:00-15:00 医学部教授 古瀬 純司	杏林大三鷹 キャンパス
7/12 (土) 地域で認知症をみる 13:30-15:00 医学部准教授 長谷川 浩	三鷹ネット ワーク大学	11/15 (土) 高齢者の介護政策と公共哲学 誰がどのように担うのか 13:30-15:00 総合政策学部准教授 岡村 裕	八王子学園 都市センター
7/26 (土) 「ロコモ」を知っていますか? 13:30-15:00 医学部教授 市村 正一	三鷹ネット ワーク大学	11/22 (土) ジブリ映画字幕翻訳から学ぶ 異文化間コミュニケーション 13:30-15:00 外国語学部准教授 八木橋 宏勇	三鷹ネット ワーク大学
9/1 (月) 緩和医療の進歩 18:00-19:30 医学部講師 窪田 靖志	杏林大三鷹 キャンパス	11/29 (土) 「ロコモ」を知っていますか? 13:30-15:00 医学部教授 市村 正一	八王子学園 都市センター
9/13 (土) 防災から減災へ 首都直下地震に備える 13:30-15:00 NHK 解説主幹 山崎 登	三鷹ネット ワーク大学	12/13 (土) くらしと税金 10:30-12:00 総合政策学部教授 知原 信良	八王子学園 都市センター
9/27 (土) 「ロコモ」を知っていますか? 13:30-15:00 医学部教授 市村 正一	羽村市 ゆとろぎ	12/13 (土) くすりとピロリ菌と胃潰瘍 13:30-15:00 医学部教授 高橋 信一	杏林大三鷹 キャンパス
10/4 (土) 嚥下障害診療の最前線 13:30-15:00 医学部准教授 唐帆 健浩	杏林大三鷹 キャンパス	2015年 1/24 (土) 地域と高齢者と医療 13:30-15:00 杏林大学名誉教授 熊谷 文枝	三鷹ネット ワーク大学
10/11 (土) 海外に学ぶアクティブシニア 13:30-15:00 CCRC 研究所客員研究員 三菱総研 松田 智生	三鷹ネット ワーク大学	3/11 (水) 小児甲状腺癌と福島原発 18:00-19:30 医学部教授 菅間 博	三鷹ネット ワーク大学
10/25 (土) 健康と運動 13:30-15:00 保健学部准教授 石井 博之	八王子学園 都市センター		

※ 7/5 は東京女子医科大学、帝京大学、駒澤大学、杏林大学合同講演会です

杏林大学三鷹キャンパス JR 中央線三鷹駅・吉祥寺駅、京王線仙川駅よりバス
三鷹ネットワーク大学 JR 中央線三鷹駅南口、三鷹駅前共同ビル
八王子学園都市センター JR 八王子駅北口、八王子スクエアビル
羽村市生涯学習センターゆとろぎ JR 青梅線羽村駅東口より徒歩

新たに展開した 薬疹の世界

平成26年 **11**月 **12**日 **水**

※11月12日は「いいヒフ」の日です

時間 **18:00 - 19:30**(開場 17:30)

会場 杏林大学三鷹キャンパス・大学院講堂
(第2病棟4階) **[定員 243名・先着順]**

※入場無料・申込不要、直接会場へ



杏林大学医学部皮膚科学教授
塩原 哲夫

(専門：皮膚科学、免疫アレルギー学)

薬疹は抗菌薬や解熱鎮痛薬などの服用により生じると考えがちですが、近年、様々な背景因子がその発症に影響を与えていることが明らかになってきました。

また、一部の薬疹では、完全に治癒した後に新たな病気が発症してくることも判明してきています。

本講演では、薬疹発症に関わる遺伝的な因子や細菌・ウイルス感染症、薬疹が回復した後に出現してくる疾患を取り上げて、薬疹の最前線の情報をお知らせします。



平成 26 年度杏林大学公開講演会

タイトル：「新たに展開した薬疹の世界」

演者：杏林大学医学部皮膚科教授 塩原哲夫

日時：11月12日（水）18時～19時30分

場所：杏林大 三鷹キャンパス

<講演概要>

薬疹は抗菌薬や解熱鎮痛薬などのお薬の服用により生じると考えがちですが、近年、様々な背景因子がその発症に影響を与えていることが明らかになってきました。また、一部の薬疹では、完全に治癒した後に新たな病気が発症してくることも判明してきています。本講演では、薬疹発症に関わる遺伝的な因子や細菌・ウイルス感染症、薬疹が回復した後に出現してくる疾患を取り上げて、薬疹の最前線の情報をお知らせ致します。

ちよつと役立つ

薬疹の知識



監修

◆ 杏林大学医学部皮膚科

◆ 厚生労働省科学研究費補助金

厚生労働省科学研究費補助金「難治性疾患等政策研究事業
(難治性疾患政策研究事業)：重症多形渗出性紅斑に関する
調査研究 (H26-難治等(難) 一一般-081)

はじめに

お薬は病気の治療にとって必要なものであり、健康維持のためにも大切なものです。お薬は身体への安全性を重視して副作用のないようにつくられていますが、時に皮膚や内臓器官に様々な病変をもたらすことがあります。

お薬が体内に入ることによって、皮膚に症状が出てくる病気のことを「薬疹」といいます。

この冊子は「薬疹」に関する基本的な事項を知っていただくために作成しました。

いろいろな病気でお薬を内服している方も多いと思われます。この冊子が少しでも皆様の参考になれば幸いです。

2014年11月

目次

1. 薬疹とはどのような病気ですか？
2. どのような症状がでるのですか？
3. 薬疹と診断するのは難しいですか？
4. どのようなお薬で生じやすいのですか？
5. 薬疹を発症させやすくする要因はありますか？
6. 入院して治療する場合もありますか？
7. どのような治療をするのですか？
8. 薬疹で後遺症を残すことはありますか？
9. 薬疹は遺伝するのですか？
10. 原因薬を見つけるためにどのような検査がありますか？
11. 薬疹を疑って医療機関を受診する時に必要なことは？
12. 薬疹と診断されました。どのようなことに注意したら良いですか？
13. 最近の薬疹の研究で明らかになってきたことは？
14. 重症の薬疹に対して救済制度はありますか？

1 薬疹とはどのような病気ですか？

薬疹とは、お薬が体内に入ることによって、皮膚や粘膜に症状が出てくる病気のことをいいます。皮膚に赤い斑点(紅斑)や赤いぶつぶつ(紅色丘疹)がみられたり、口や鼻の粘膜にただれ、眼に障害などを起こすことがあります。

また、皮膚・粘膜だけでなく肝臓、腎臓、血液などにも障害をもたらして全身性に症状が出現する場合があります。

軽いものは原因となっているお薬を中止するのみで治療しますが、重いものでは入院して治療する必要があります。

2 どのような症状がでるのですか？

薬疹は多彩な病変をもたらします。その特徴によりいくつかのタイプ（病型）に分けられます。

◆ 代表的な薬疹のタイプ

- ① 固定薬疹
同じお薬を内服する度に繰り返し同部位に赤紫色の斑を生じます。
- ② 播種状紅斑丘疹型薬疹
麻疹（はしか）や風疹（3日ばしか）と同じような発疹がでできます。
- ③ スティーブンス・ジョンソン症候群
高熱をともなって皮膚や粘膜に赤い斑点やただれが出現します。眼の後遺症を残すことがあります。
- ④ 中毒性表皮壊死症
スティーブンス・ジョンソン症候群の重症のタイプで、広範囲に皮膚のただれがみられ、時に死亡することもあります。
- ⑤ 薬剤性過敏症候群
特定のお薬を長期間（2～6週間）内服した後に生じ、経過中に体内に潜伏しているヘルペスウイルスが関わる重症の薬疹です。

3 薬疹と診断するのは難しいですか？

薬疹の中で全身に赤い斑点が生じ、高熱を呈するものでは、ウイルス感染症による発疹との区別がつきにくいのです。特に初期の薬疹の症状は、麻疹（はしか）や風疹（3日ばしか）の症状と類似します。このため、実際には初期に薬疹と診断確定するのは困難なことが多いのです。



全身に赤い斑点と発熱が出て、薬疹を疑い病院を受診する時には、過去の病気のことを確認しておきましょう。

1. 麻疹にかかった？
2. 風疹にかかった？
3. 予防接種はすんでいる？

4 どのようなお薬で生じやすいのですか？

お薬は安全性をととても重視してつくられ、いろいろな方面から検査されて提供されています。しかし、どのようなお薬でも薬疹を引き起こす可能性があります。

薬疹を生じやすいお薬

- ✿ 鎮痛解熱薬（痛み止め）
- ✿ 抗菌薬（化膿止め）
- ✿ 抗けいれん薬
- ✿ 高尿酸血症治療薬
- ✿ 総合感冒薬

時に健康維持食品、サプリメントなどの服用でも、薬疹が生じることがあります。

5 薬疹を発症させやすくする要因はありますか？

薬疹を発症しやすくする要因としては、遺伝的な素因があります。現在、この遺伝的素因はある特定の薬剤で明らかになっており、研究も行われています。

この他、感染症も体内に薬疹を生じやすい環境をもたらします。細菌感染症ではマイコプラズマ感染症、ウイルス感染症ではエプスタイン-バー（Epstein-Barr）ウイルスによって発症する伝染性単核球症などに罹った時に薬疹が出現しやすくなるといわれています。

また、お薬の種類によっては、日光照射を受けた部位に発疹が生じてくる場合もあります。

薬疹を発症しやすくする要因

- ✿ 細菌感染症
- ✿ ウイルス感染症

6

入院して治療する場合もありますか？

軽症の薬疹は、原因となったお薬を中止するのみで、治癒する場合があります。しかし、全身の症状を伴うような重症の薬疹ではお薬の中止のみでは軽快せず、入院して治療する場合があります。



入院加療を必要とする場合が多い重症の薬疹のタイプ

- ✳ スティーブンス・ジョンソン症候群
- ✳ 中毒性表皮壊死症
- ✳ 薬剤性過敏症候群

重症薬疹の症状は短期間で変動しますので、採血検査などを頻回に行います。

7

どのような治療をするのですか？

薬疹には、皮膚・粘膜の症状のみならず、高熱、リンパ節の腫れ、肝臓の障害、腎臓の障害、血液の異常、眼の病変などの皮膚・粘膜以外の臓器の障害をもたらすことがあります。

このような場合には入院して治療します。

薬疹のタイプにより、治療は異なります

- ◆ 重症薬疹の主な治療法
 - ✳ 副腎皮質ステロイド内服療法
 - ✳ ステロイドパルス療法
 - ✳ 免疫グロブリン製剤大量静注療法
 - ✳ 血漿交換療法

8

薬疹で後遺症を残すことはありますか？

重症薬疹のステイーブンス・ジョンソン症候群や中毒性表皮壊死症は、後遺症を残すことがあります。皮膚では爪の変形や脱落が生じることがあります。眼の粘膜が強く傷害されると視力低下、まぶたの癒着、眼の乾燥（ドライアイ）などの後遺症を残すことがあります。

呼吸器の病変が長引くと閉塞性細気管支炎による呼吸障害を引き起こすこともあります。

一方、薬剤性過敏症候群は、まれに発症から数ヶ月～数年後に、劇症1型糖尿病、甲状腺疾患、膠原病などを続発症として生じることがあります。

後遺症・続発症の出現

ステイーブンス・ジョンソン症候群 } 視力の障害
中毒性表皮壊死症

薬剤性過敏症候群 → 劇症1型糖尿病、
甲状腺の病気、膠原病

9

薬疹は遺伝するのですか？

「薬疹」という病気は遺伝しませんが、近年、ある特定のお薬で生じる薬疹は、特定の遺伝的な素因（体質）を有する人に発症しやすいことが明らかになってきています。

このため、どのような遺伝的素因をもつ人が、どのお薬で薬疹を生じるのかについて調査研究が進行中です。

遺伝的素因 + ある特定の薬剤



薬疹発症の可能性

担当医師より遺伝的素因の採血などの検査依頼がある時には、ご協力をお願い致します。

10

原因薬を見つけるためにどのような検査がありますか？

皮膚や粘膜の症状出現までの経過やお薬の使用期間、投薬されているお薬（類似のお薬）が過去に薬疹を発症したかどうかなどを参考にして、原因として疑わしいお薬を探します。

また、患者さんの血液とお薬を試験管の中で混ぜてリンパ球（白血球の1つの成分）が増殖するかどうかをみる検査（薬剤添加リンパ球刺激試験）や患者さんの皮膚に疑わしいお薬を貼って反応をみる貼布試験（パッチテスト）などがあります。



- ※ 実際には、検査をしても原因となったお薬を決定できないこともあります。
- ※ ウイルス感染症などにかかっている時には、検査結果の評価が困難な場合があります。

11

薬疹を疑って医療機関を受診する時に必要なことは？

薬疹を疑って医療機関を受診なさるとき時には、内服薬説明書やお薬手帳などを忘れずにご持参ください。

◆ 医師がお尋ねすること

1. どのようなお薬（正確なお薬の名前が必要です）を内服しましたか？
2. いつからお薬を内服しましたか？
3. どのような症状（発熱、のどの痛み、皮膚の斑点など）がいつからでしたか？
4. 今まで同じような症状がでたことはありますか？
5. C型慢性肝炎や腎臓の病気などにかかっていますか？

薬局からの内服薬説明書やお薬手帳などを必ずご持参ください。



12

薬疹と診断されました。どのようなことに注意したら良いですか？

薬疹を発症したお薬の名称は、必ずお薬手帳に記載しておいてください。あるいは、薬疹と診断した担当医師に記載して頂いて下さい。

医療機関を受診する際は、必ずお薬手帳を見せて、薬疹をおこした薬剤名を医師・薬剤師に伝えてください。

歯科受診時にもお薬手帳を歯科医師にみせ、薬疹がでるお薬があることを伝えて下さい。ご自身で市販のお薬を購入される時にも必ず薬剤師にお薬手帳をみせてください。

注意

- ※ 同じお薬の成分が様々な市販薬（風邪薬、鎮痛薬など）に含まれている場合があります。
- ※ 同じお薬の成分でも異なる名前（商品名）で販売されています。

13

最近の薬疹の研究で明らかになってきたことは？

- ◆ 薬疹のあるタイプ（薬剤性過敏症候群）では、ヘルペスウイルスが病態に密接に関係していることが判ってきました。
 - ヒトヘルペスウイルスと薬疹の関わりが精力的に研究されています。
- ◆ ある特定のお薬ですが、遺伝的な体質（素因）を持っている人に発症しやすいことが明らかになってきました。
 - この事実をもとに、お薬を飲む前に遺伝的体質を調べて薬疹の発症を防ぐ研究が進行中です。
- ◆ 重症薬疹のスティーブンス・ジョンソン症候群や中毒性表皮壊死症の治療として、免疫グロブリン製剤大量静注療法が有効なことが明らかになり、治療の1つに加わりました。
 - どの方法をどのようなタイミングで施行して治療を進めるのかについて、研究が行われています。

14

重症の薬疹に対して救済制度はありますか？

医薬品により健康被害を受けられた方を救済するための公的な制度があります。

この制度では病院で処方された医薬品、薬局で購入した医薬品を正しく使用したにもかかわらず発症した重症の健康被害が救済の対象となります。

救済の対象とならない場合もありますので、詳細についてはホームページなどを参考にしてください。

医薬品副作用救済制度

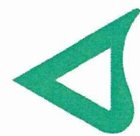
- ◆ ホームページの案内 <http://www.pmda.go.jp>
- ◆ 救済制度相談窓口 電話:0120-149-931
(祝祭日除く)

重症薬疹についてのご案内

- ◆ 難病情報センター
重症多形滲出性紅斑(急性期)
<http://www.nanbyou.or.jp/>
- ◆ 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究
厚生労働省科学研究費補助金「難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)」
(H26-難治等(難)一般-081)
<http://takeikouhan.jp/index.html>



MEMO



ix. 関連ホームページのご案内

P.151～P.156